

4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント

- (1) 記述・表現が明確か？
 - (1-1) 言葉の定義は明確か？
 - (1-2) 曖昧な用語を使用していないか？
 - (2) 実施状況や成果の説明に具体性があるか？
 - (3) データは適切に使われているか？
 - (4) 目標・計画・質問の捉え方、目標・計画そのものについて、問題はないか？
- ▶ 演習では、以上を踏まえて事例を吟味し、その結果を発表して、より良い自己評価書作成の勘所をつかむ。

26

4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (1) 記述・表現が明確か？

- (1-1) 言葉の定義は明確か？
- 次のような用語等に注意
 - ①人によって定義・解釈が異なる可能性のある用語
(例) グローバル化, コミュニケーション力
 - ②学内でのみ通用する用語・略称
(例) 評大アドバイザー, HUIRS
- これらについては、評価者との間で共通認識を形成できるように自大学で用いている定義や具体的な内容を説明する必要がある。

27

4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (1) 記述・表現が明確か？

- (1-2) 曖昧な用語を使用していないか？
- 評価書には客観性が求められる。
- 「それほど」、「だいたい」、「思われる」、「因る」等の曖昧な用語を使わず、明快に言い切る表現が求められる。
- (例1) 「卒業生アンケートの結果、大学生活にだいたい満足している。」
→ 「だいたい」の基準が分からないので達成度を判断できない。
- (例2) 「内部質保証システムの整備が図られた。」
→ 「結局、内部質保証システムは整備できたのか」という疑問が生じる。

28

4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (2) 実施状況や成果の説明に具体性があるか？

- 自己評価書の説明が具体的に書いてあると、何をやっているのか、あるいはどんな成果があったのかイメージできる。
- (例1) 「毎学期学生アンケートを実施し、結果を授業改善に活かしている。」
→ 「改善の内容、改善後の成果はどうなっているか」という疑問が出てくる。
- (例2) 「学生の学修成果を定期的に教員が確認し、学生の学修成果の向上を図るため、ポートフォリオを導入している。」
→ 「ポートフォリオはどの程度利用されているか」とか「ポートフォリオをどのように使って学生の学修成果を向上させているか」などの疑問が出てくる。
- 想定した結果が伴っていない場合、その原因や改善策を示すことが重要。

29

4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (3) データは適切に使われているか？ (1)

- 「エビデンス（根拠）に基づく評価」が原則
= 定量的あるいは客観的なデータを示した上で、結論を根拠づける。
- 目標・計画あるいは認証評価における質問に照らして、また、自己評価書本文の記載内容に照らして、次を行う必要がある。
 - ① 実施状況や成果を“端的に”示すものであるかどうか吟味
 - ② 提示内容は必要十分であるかどうか吟味
 - ③ 資料・データの精選、あるいは資料・データを分かりやすい形に整理
- 成果を示す場合、事前と事後の比較、経年変化などのデータに基づく分析がなされていることは、改善・向上などの変化の程度を明確に示す意味で有効。表やグラフの利用も効果がある。

30

4. 自己評価書作成に当たってのチェックポイント (3) データは適切に使われているか？ (2)

(例) 「共同研究収入は前年度よりも300万円増加した(資料1)。」

資料1 前年度及び今年度の共同研究タイトル一覧

共同研究先の企業等名	研究タイトル	研究期間
〇〇製薬	老化防止薬の開発	H27~30
△△情報通信	ビッグデータの管理に関する研究	H28~29
◇◇◇◇工業	耐震性を高める建築方法	H28
◇◇◇◇工業	断熱効果の高い建築方法	H29

- 収入額に関する情報が一切記されていないので、この計画の実施状況を説明する根拠資料としては不適切。収入額の欄を追加したとしても、この記述に対する資料としては分かりづらい。

31

4. 自己評価書作成に当たったのチェックポイント (4) 目標・計画・質問の捉え方, 目標・計画そのものについて, 問題はないか? (1)

- 目標・計画あるいは認証評価における質問に沿って, もれなく結果を記す。
～ 評価者は自己評価書の記載内容“だけ”を頼りに評価する。
- 目標・計画あるいは認証評価における質問の内容を的確に捉え, 整合性のある記述をする。

(例)

計画	実施状況
教員評価を毎年度行う。	平成25年度より, 毎年度全ての授業について全学統一形式の授業評価アンケートを行い, その結果を授業改善に活用している。

- 一 教員評価は教員の教育研究等の活動状況に関する個人評価であるという認識を持つ評価者が読めば, 計画の捉え方がおかしいと思うだろう。
もし一般に理解されている意味での教員評価を行っているのであれば, その内容や実施方法, 評価結果の活用方法などに書き換える必要がある。

32

4. 自己評価書作成に当たったのチェックポイント (4) 目標・計画・質問の捉え方, 目標・計画そのものについて, 問題はないか? (2)

- 曖昧な目標・計画, 実現可能性を無視した目標・計画, 行き当たりばったりの目標・計画など, 目標・計画そのものに問題がある場合もある。

(例) 計画「教員の研究活動を充実させる。」の問題点

- 計画の具体的な内容をイメージできない(人によってイメージする内容が異なる)。
 - 自己点検・評価を行うときに事前に点検項目や数値目標などが設定されていないれば, 何をもって充実したと判断すればよいか分からない。
- 評価担当者としては, 目標・計画そのものに問題がある場合に, 具体的かつ達成可能な目標・計画に修正するように計画立案者に提案することも考えられる。ただし, 公表済みの目標・計画の修正は一般に困難である。

33